

災害防止対策の検討項目例(令和5年4月)

軽種馬産業のみなさまへ

令和4年の軽種馬に関する休業4日以上死傷災害件数は115件と浦河署における全産業の災害発生件数(220件)の52.3%を占めています。

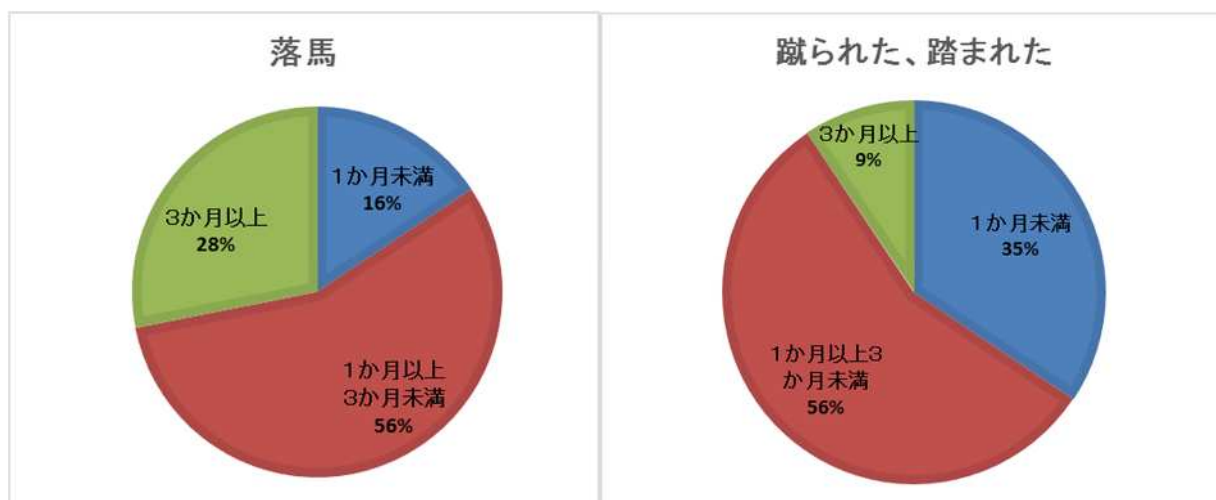
軽種馬に関する死傷災害件数は平成29年以降毎年増加しており、令和4年の災害発生件数は昨年の発生件数(112件)を超えて過去10年の中で最も多い件数となっています。

令和4年の災害の内容では、軽種馬に関する死傷災害件数115件のうち、

「落馬」 32件

「蹴られた・踏まれた」 32件

となっており、これらの災害が軽種馬に関する死傷災害件数の半数以上を占める状態となっております。さらに、これらの災害が発生した際の休業期間を見ると、下のグラフのとおり、1か月以上の休業期間となるケースが半数を超えており、一度災害が発生した場合は休業期間が長くなることが明らかとなっております。引き続き災害防止対策及び災害発生時の被害軽減対策を進める必要があります。



「災害防止対策の検討項目例」は、例示となりますので、自社で発生した災害の原因を把握し、原因に対応した対策の検討をお願いします。また、検討の際は、できるだけ馬の扱いの対策(災害を発生させないための対策)と保護具の使用(災害が発生した場合の軽症化のための対策)の両方をご検討ください。

引き続き、提出いただいた検討会議の議事録や再発防止対策書から、好事例を災害防止対策の検討項目例に加えていきたいと思っております。

ひとつでも軽種馬産業の災害を減らすことの一助になれば幸いです。

1 馬に対する検討事項

- 馬の特性についての情報の共有
 - ・ 暴れやすい馬や、神経質な馬であるなど、馬の特性について共有していたか（馬の注意事項をホワイトボードやノートに書くなど、情報の共有方法を工夫している牧場があります）
 - ・ 担当者を変える際にも、馬の情報を共有し、新しい担当者が扱えるか試したか
 - ・ 馬の移動に伴い、他の牧場、馬運車の人等にも情報提供しているか

- 暴れる馬についての検討
 - ・ 馬の特性に応じた扱いについて検討していたか
 - ・ 馬の扱い方に暴れる原因がないか
 - ・ 馬の環境が変わった後ではないか
 - ・ 必要な物理的対策(馬の世話等でもヘルメット、プロテクター、安全靴の使用)
 - ・ 特に取り扱いの難しい馬は、取り扱う人(取り扱える人)を決めているか
 - ・ 馬の扱いの講師を招いたり、講習会に参加したりして技術の向上をしているか
 - ・ 様々な保護具、プロテクターを試し、装着して軽症化をしているか
 - ・ 馬が驚くことを防止するため、鹿の対策や、厩舎に鳩や鳥の侵入防止をしているか

- 普段はおとなしい馬についての検討
 - ・ 休養明け等で、暴れて怪我をしている例が多数あります
 - ・ おとなしい馬と油断している事が原因となっている例が多数あります

- 親子の馬の対策
 - ・ 産後の親子のいる馬房に入る際は、親馬に蹴られないようにしているか
 - ・ 一人で扱える親子の馬か、作業者に一人で扱う力量があるか
 - ・ 親子の馬が暴れた時に、一人作業での対策は決めているか

- 放集牧での対策
 - 放牧地に入る際に、馬の様子や馬が驚く因子がないか観察しているか
 - 馬が必要以上に人を恐れる様な扱いをしていないか
 - ・ 狭い場所からゆっくり近づく訓練をしたか
 - ・ 捕まえた馬を怒っていないか
 - 動かない馬に対して無理やり動かしていないか
 - うとうとしている馬に急に近づいていないか
 - 放集牧方法について検討しているか
 - ・ 馬の序列を把握しているか
 - ・ 安全な放牧手順を一連の流れとしてしつけ、習慣化しているか

- ・ 複数の馬の放集牧を行う場合、人の連携方法について検討しているか
- ・ 遠い放牧場から放牧しているか(既に放牧した馬の前を通り馬が入れ込む)

○ 馬房での対策

厩舎の通路では、馬が入っている馬房から離れた位置で、馬房まで馬を引いているか
馬房に入る時、馬のお尻が当たらないよう、馬を真っすぐ入れているか
馬房に入ったら、回転し、馬の頭を出入り口に持ってきて、馬房から人が出てから馬を放しているか(回転方向は、馬によって違う場合もあり、どちら回りが良いのか、回転方向を固定することが災害になる場合もあります)

足を触られるのを嫌がる馬

調教不足、馬の反射行為、3本足で立つのに慣れていないのではないか

人を押しのける、頭を遠ざける馬

しつけや調教不足ではないか、扱いが不適切、不十分ではないか

○ 曳き馬での対策

曳き馬をするためのしつけをしていたか

- ・ 馬に対する教育

先に行かないしつけ、距離を保てるしつけはしているか

- ・ 人に対する教育

持ち方は手が馬に見えるようにしているか、踏まれない位置だったか、しつけが不十分な結果、普段から強引や乱暴に扱っていないか

曳き馬の方法を統一しているか

- ・ 統一方法ではなく、知識不足の扱い又は自己流の扱いに馬が混乱していないか

- ・ 馬の序列を把握し、馬の順番を決めているか

- ・ 扱う人の順番を決めているか

- ・ 万一馬が一斉に暴走した際の対応は決めているか

万一の際の放馬の条件を検討しているか

移動経路は整備されているか

- ・ 石や枝拾い、見通しを良くしているか

- ・ 凍結しやすい状況を放置していないか

馬の視力に合わせた対応

- ・ 日差しの強い場所から暗い馬房に入る時など、馬が明暗に順応するための数秒を待っているか

○ 騎乗での馬の扱いの対策

馬が驚かないよう対策をしているか

- ・ 馬から周りが良く見えるようにしているか、頭の位置を変える配慮をしているか
- ・ 死角のため急にトラックに驚く、カラスに驚く

- ・馬の視力に問題はないか
- ・馴致後慣れていない馬は、馬場の中央を走らせ、柵までの余裕距離を確保する馬が嫌がらない扱いの対策をしているか
- ・神経質な馬に鞭を多用していないか
- ・コントロール、制する、強いるを、第三者から見て検討する必要はないか
- 移動時
 - ・騎乗者が気を緩め、馬や周囲への注意を怠っていないか
 - ・馬が滑りやすいアスファルトの上を移動経路としていないか
 - ・車が後方から近づく際に、馬に車が後ろから来るのが見えるようにしたか
 - ・下り坂では頭を起こして動きをコントロールしていたか
 - ・移動経路の凍結している場所を避けているか(凍結しやすい状況を放置していないか)
- 馬の集団での対策
 - ・各馬との安全な距離を検討したか
 - ・前に出たがる馬を、制しているのか
 - ・馬の順番を検討したか
- 騎乗者が単なる移動として油断していないか
- 落馬が多い事例の対策
 - ・休み明け、休養明けではなかったか、馬のガス抜きは充分だったか
 - ・気性の荒い馬の馴致は、丁寧に時間をかけているか
 - ・馬具が馬に合っているか、背中を痛がっていないか、鞍を締め過ぎていないか
 - ・おとなしい馬への油断はなかったか
- 馬に関する情報共有不足ではないか、外国人に対して分かるようにしているか
- 落馬後の対策
 - ・放馬止めロープの設置等の検討をしたか
 - ・受け身等の訓練をしているか
- 馬が躓く等、前方に頭から落馬した場合に、頭部を直撃した場合、頭部ではなく頸椎が耐え切れずに死亡に至った災害があります。
- 馬場の状態についての対策
 - ・ハローを掛けるタイミングは見直さなくて良いか
 - ・冬季に凍結している場所はないか

○ 馬運車

馬運車に乗るのを嫌がる

馬の曳馬の抑制、停止、発進の段階的訓練をしているか

運送会社の馬を扱う人に対する教育をしているのか

馬の情報の入手等

- ・口頭で簡単な申し送りとなっていないか
- ・運送会社から馬の情報を依頼しているのか

・本州では、牧場側が運送会社の人の馬の扱いの教育を行っている場合があります
輸送に慣れていない馬に耳栓をしているか

○ 種付け作業

事前に行うこと

- ・事前に牝馬の性格や経歴、注意等の情報を飼養者に確認し、作業者に周知しているか
馬に関する作業の中でも、馬が何時蹴って来てもおかしくない状態下で、馬に蹴られる領域に入って作業を行うのであれば、万一蹴られても軽症化できる対策が必要です。
- ・全体の指揮を行う者が、牝馬の状態を良く確認し、全体に指示を共有してから作業を始めているか
- ・種付け経験の浅い馬、問題のある馬の場合、対応するスタッフを選んでいるか
- ・馬の交配本能を理解し試情にあたり、人の都合で作業を急かしていないか
- ・牝馬の発情の確認は充分であったか
- ・万一腕や指を噛まれた際に、無理に引き抜き重症化しないよう教育しているか
- ・ヘルメットと安全靴以外に、プロテクターの装着の検討をしているか

2 人に対する検討事項

- 経営層が災害防止に本気で取り組む姿勢を労働者に対して明確にしていますか
「社長から労災防止について意思統一した」、「厩舎に安全第一の表示を行った」
「会社の指示に従わない場合騎乗させない」等の意思表示を行っている会社があります。

○ 保護具の使用について

作業の危険性に応じて、ヘルメット、安全靴、マウスガード、プロテクター等の保護具の使用を検討してください。保護具の着用に関する労働安全衛生法上の規則はないため、重大な災害とならないためにどの保護具を選定するのかを社内で話し合い、自主的に決定することが大事です。

- ・生産牧場や育成牧場では、騎乗時以外の馬の扱い時にもヘルメット、安全靴、プロテクターの着用をする牧場が増えています。
- ・種牡馬牧場でも、種付け作業時にヘルメット、プロテクター、安全靴を使用している牧場があります。

○ 落馬時の対応

- ・落馬時は、諦めずに、受け身を取ろうとした方が軽傷化につながります。
- ・プロテクターを装着して、受け身の練習を行うことで、プロテクターの有効性を体感でき、プロテクターで体を守ろうと自然に体が動けるようになる。
- ・落馬後、馬が立ち上がる際に蹴られないよう、馬から出来るだけ早く離れる。
- ・使用する鎧も、より使いやすい物を試して検討する。
- ・落馬の多い人、騎乗技術が未熟な人には、より有効なプロテクター等を使用し、研

修を行う。

- ・ 当日作業前の体調確認により、騎乗に不安がないか確認する。
- ・ 冬季は、坂路や騎乗して通る場所の地面が、凍結により硬い状態だとプロテクターをしても骨折の可能性を高めるので、氷の取り除きや水が溜まる対策、坂路の雪の吹込みの防止対策やハローがけを行う。

○ 教育、周知を行う場合

- ・ 代表者が、決めた対策を周知しているか(代表者以外が決めた場合に、何が正しいのか、誰が正しいのか混乱するため)
- ・ いつ、どこで、誰が教育を行うのか、具体的に検討しているか
- ・ 教育や周知を行う際は、口頭だけではなく実演や資料を使っているか
- ・ 教育や周知を行った場合に、日時、参加者等の記録は残しているか
- ・ 外国人に対して教育を行う場合、母国語や英語、「やさしい日本語」等、外国人が理解出来るようにしているか
- ・ 馬のしつけ方、扱い方を統一しているか